

アレスコ ALESCO

鳥取大学医学部保健学科広報
2013.2 No.11

ときおり風が冷たいながらも、春の兆しに大地の生命が動き始める啓蟄の頃、秀峰・大山に励まされ北帰行にはばたくハクチョウの優美な編隊を目にすることができます。その姿に学び舎を巣立った学生達が重なる季節です。

アレスコ(ALESCO)とは古代ラテン語で「成長する、発展する」という意味です。



INDEX

目次

P02 | 写真で綴る新入生宿泊研修会

P05 | 保健学科長挨拶

P06 | 卒業生だより(第2回)

P07 | あいさつ運動

P08 | 環境美化活動

P09 | 講座紹介

- 地域・精神看護学講座
- 母性・小児家族看護学講座
- 病態検査学講座

P12 | 平成25年度学年暦
クラス学級教員

P13 | 平成23年度後援会事業報告
平成24年度後援会役員名簿

P14 | 平成24年度後援会事業計画
編集後記

PHOTO

写真で綴る新入生宿泊研修会

これは、大学入学後様々な悩みを抱きやすい新入生を、早く大学生活になれるように支援するための宿泊研修行事であります。同時に大学入門ゼミという必修の授業科目でもあります。平成24年度は4月21日(土)・22日(日)に実施いたしました。

その一端をスナップ写真で紹介いたします。

グループワーク発表1



グループワーク発表2



グループワークアイスブレイク



アイスブレイク1



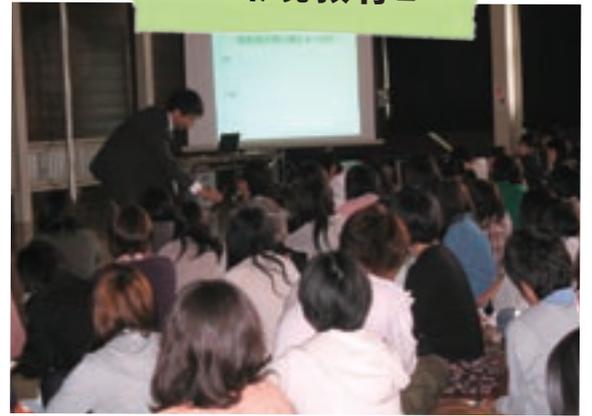
アイスブレイク2



環境教育1



環境教育2



アドバイザーさんたち(2年生)



病院見学前廣岡先生挨拶



病院見学(検査)



病院見学(看護)



食事 1



食事 2



食事 3



食事 4



野外での話し合い1



野外での話し合い2



野外での話し合い3



野外での話し合い4





保健学科の将来構想

保健学科長 廣岡 保明

鳥取大学医学部保健学科ができるまでの看護師、検査技師養成の歴史は古く、大正14年の西伯郡米子病院の産婆養成所に始まっております。その後、米子医学専門学校附属看護婦養成所、米子医科大学附属看護婦養成所、鳥取大学医学部附属看護学校・医学部附属衛生検査技師学校、鳥取大学医療技術短期大学部を経て、平成11年10月に保健学科に改組されました。その間、多くの看護師、保健師、助産師、臨床検査技師を山陰地方を中心に日本全国に送り出すことが出来たのも、物心両面で支えていただいた保護者、卒業生、後援会、同窓会そして関係各位の皆様方のご協力、ご支援のおかげと深く感謝いたしております。

さて、近年の少子化にもかかわらず多くの看護系、医療系の大学や学部が増加してきております。現在でも看護系教員は不足しており、教員の公募をしても応募者が少ない現状であるにもかかわらず、このまま各種の大学が乱立すれば質の低下がおこる(おこっている?)のは火を見るより明らかです。そのため、各大学では種々の試みを行って独自の特徴を出そうとしております。

保健学科でも、より質の高い教育、研究を行ってNo1を目指すことが出来るよう、昨年度のアレスコ(保健学科広報誌)に記載した内容をさらに推し進めて、保健学科および保健学専攻(大学院)全体で進むべき方向について議論を深めております。

- (1) **入試改革**:3年次の編入学試験(定員は看護10人、検査5人)は、専門学校や短期大学などの卒業生に門戸を開く、というのが当初の目的でありましたが、4年制大学の増加に伴ってその必要性が薄れてきているようです。本学科では編入学の目的を再度検討し、より明確な動機を持ち、入学後は他をリードしていくような学生(社会人)が受験出来るような入試にできないかと検討中であります。
- (2) **卒業時の資格取得**:保健学科看護学専攻の卒業時には、看護師、保健師、助産師(10名程度)の受験資格以外に、養護教諭II種免許の資格を申請できますが、例年、養護教諭I種免許の取得希望も少数ですが出ております。I種免許の資格取得のためには多くの講義実習科目の追加設定が必要となるため、その人員配置を含めて検討中であります。
- (3) **心の教育**:医療の高度化・専門化に伴って看護、検査いずれも先進的な知識・技術が求められるようになってきましたが、最も重要で、忘れてならないのは他者(特に患者)へのいたわりの心、思いやりの心であります。そのため、他者とのコミュニケーションや心の教育を、今以上に行いたいと考えております。
- (4) **専門資格(看護専攻)**:看護師の質の向上のため、附属病院に看護師キャリアアップセンターが設置され、2012年9月より【がん化学療法看護認定看護師】の教育課程(山陰両県の病院より看護師7人が受講)が開始されました。その教育は保健学科教員が主として担当しておりますが、2013年9月から同じ【がん化学療法看護認定看護師】の教育課程を開講予定です。それを基盤として大学院保健学専攻に【がん専門看護師】などの専門看護師養成課程の設置準備を始めようとしております。
- (5) **専門資格(検査専攻)**:大学院保健学専攻では附属病院の臨床各科(病理部、外科、内科など)の協力のもと、臨床検査技師の専門資格である細胞検査士、超音波検査士、認知症専門検査技師、などの資格取得のための実践教育を、今以上に推し進める予定であります。
- (6) **地域貢献**:鳥取県や地方自治体と連携し、研修会、講習会、講演会などに保健学科教員を派遣し、地域全体で向上するような支援をさらに推し進めようとしております。
- (7) **研究**:質の高い教育を行うためには、質の高い研究が必要であるとの認識から、現在国内で注目されている認知症の予防、診断に関する研究や、在宅酸素療法患者に対する管理システムの研究、などをさらに推し進めて行こうとしております。

保健学科の現況と短期の将来構想を簡単に述べさせていただきましたが、保健学科の今後の飛躍のため、皆様方のさらなるご指導、ご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

VOICE

卒業生だより(第2回)



卒業生
VOICE

検査技術科学専攻
平成21(2009)年卒

大栗 聖由

みなさんこんにちは! 私は鳥取大学医学部保健学科検査技術科学専攻第六期生の大栗聖由です。学部4年が終わってから、修士課程を卒業し、今は鳥取大学医学部附属病院検査部の生理検査室で働きながら、博士課程に入学し、忙しいながらも二つの目標を持ち充実した毎日を送っています。

日常業務である生理検査室での仕事は、心電図、肺機能、聴力検査や平衡検査、そして脳波・筋電図など、患者個々の状況に合わせた検査方法の選択と結果の解釈が必要です。また、当直勤務では血液、生化学、微生物、輸血など日常業務で行っていない部門の知識も必要になってきます。専門分野ではないからといって結果の解釈ができないのでは、パニック値が出たときの対応にも困るので、当直帯での検査が落ち着いた時は機械の操作方法・原理、結果の解釈や、カルテで患者背景と検査値との妥当性など勉強しています。

次に一つ目の目標でもある研究に関して紹介します。学部を卒業し進学した修士課程では、生理研究室で、神経系の面白さと、研究を進めるための過程を学ばせて頂きました。また修士生の時から脳神経小児科の検査を一部担当させていただいたり、早朝の入院カンファにも参加し勉強させていただきました。そのおかげで、現在脳神経小児科の博士課程に入学し、前垣先生のもと「脳波解析による急性脳症と熱性けいれんとの鑑別」をテーマに研究をしています。急性脳症とはけいれん、意識障害で発症する疾患で中枢神経障害の一つですが、後遺症が残る脳症があるため、早期診断、早期治療が重要です。テーマは脳症の早期診断を可能にする脳波解析法を確立するのが目的で、修士の時の研究を発展させたものですが、なかなか前進することができません。しかし焦らず基礎からみなおし、ゴールに向かって頑張っていこうと思っています。

二つ目の目標は、臨床検査技師を教育する教育職になることです。現在は検査技師として、臨床での医療チームの一員としての経験を積み重ねることが大切と考えていますが、将来後輩たちに臨床で経験したことを楽しく厳しく教えることができれば本望と思っています。

鳥取大学が提唱している「人間力」という言葉では、人間力は「知力」、「実践力」、「気力」、「体力」、そして「コミュニケーション力」から成り立っていると定義しています。いままで鳥取大学で得た知識やいろんな人との交流により、自分の人間力を磨き、社会人として自信を持って頑張ることができていると思います。今回この卒業生だよりを執筆する機会をいただき、鳥取大学に入学したからこそ今の自分が成り立っているのだろうと、再認識しました。人生まだまだこれからですが、鳥取大学で得た人間力をさらに磨き自分の夢を実現させるよう頑張ります。この場を借りて今までお世話になった大学の先生方や学校関係者の方々、また一緒に頑張った友達や先輩、後輩の皆様へここから感謝したいと思います。これからも宜しくお願い致します。

TOPICS

あいさつ運動

基礎看護学講座 教授 萩野 浩



秋も深まった11月中旬、アレスコ棟であいさつ運動が繰り広げられました。

古来、我が国では“挨拶”を「言葉かけ」と言い、他人と外で出会ったりすれ違ったりした際は言葉を掛けるのが一般的な礼儀であったといえます。戦前生まれの人では、親戚や近所、職場の同僚との間で、協力し合い、助け合う深い間柄でありたいと思う人が多く、積極的に挨拶が行われていたとされます。

お国柄もあります。米国に行かれた方は、アメリカ人がよく挨拶をすると感じられたのではないのでしょうか？ ホテルやアパートの廊下ですれ違った際や、ビルのエレベータと一緒に乗った際には、見ず知らずの人でも、笑顔で“ハイ”と挨拶をしてくれます。これは、「私は悪い人でなく、あなたの友達ですよ」という、意志の表れです。異なる人種、文化を背景にする人々が一緒に暮らすアメリカならではの習慣なのでしょう。

これと対照的に、現代の日本では、近年、人間関係を深くするのがわずらわしく、差しさわりのない程度につきあうのがいいと思う人が多くなっているようです。「道で知らない人に声をかけられたら無視しなさい」と親に教えられた世代にとっては、あまりよく知らない人から挨拶をされると、身の危険を感じるようになるのかも知れません。さらに最近ではツイッターやフェイスブックのようなソーシャルネットワークサービス(SNS)を利用して、好きな時に、好きな人と、簡単に十分なコミュニケーションが取れるようになってきました。周囲の人との人間関係にこだわる必要性に乏しくなり、対人関係の潤滑油である挨拶をしない人口が増加していると言われています。

そこで医学部では附属病院を含めて、全ての職員、学生が、気持ちよく挨拶を交わすことを目的にあいさつ運動が実施されました。この運動を進めて、「おはようございます」で始まる1日はなんとも爽やかなものだと、あらためて感じています。

TOPICS

環境美化活動

地域・精神看護学講座 教授 松浦治代

今年度、廣岡学科長の発案で、構内の環境美化を目的としてボランティアが組織されました。アレスコ棟清掃・園芸ボランティアクラブ(Alesco Gardening Club:AGC)といいます。構内に花を植え、清掃活動をしていく予定です。お気づきの方もいるかと思いますが、11月には教職員、学生とその家族30人程度が集まり、保健学科棟の入り口から玄関にかけて、学生会館の前あたりに、花壇とプランターを設置し、花を植えました。今後、春に向けて成長した花が咲きそろう華やかな花壇になる予定です。また、この活動を皆さんに知っていただき、活動が広まるよう、年度末には「きれいにプランターを育てた」コンテストも企画しています。



アレスコ棟清掃・園芸ボランティアクラブ
(Alesco Gardening Club:AGC)

活動後の集合写真



DEPARTMENT

講座紹介

地域・精神看護学講座
講座代表 吉岡伸一

地域・精神看護学講座

地域・精神看護学講座は、地域看護学・精神看護学・在宅看護学の主に3つの専門分野に関する教育を担当し、研究を行っています。

専門分野は3つであり、それぞれの専門性がある一方、“ひとを見る”ということにおいて共通していることも少なくはありません。近年の看護は地域でのケアや予防に重点が置かれ、生活の場で如何に住民のニーズに対応した看護を提供できるかが求められる時代といえます。また、少子高齢化や国民の価値観の多様化に伴う課題、疾病構造の変化や治療技術の進歩、さらに医療経済上の課題や在宅医療の需要拡大、こころの健康づくりに積極的に取り組むことの重要性が高まっています。このような流れの中、疾病や障がいをもつ人々へのケアだけでなく、健康をつくり出す視点を持ち、個人への支援はもちろんのこと、地域づくりのプロデュースを担うことができる能力が看護師に求められています。

本講座では、このような社会のニーズに対応した看護について日々追求し、ニーズを敏感に読み取り、実践力をもつ専門家の育成へ向け、学内のほか地域へ出かけての講義や演習、実習を行っています。教員一同が協力し、時に熱く語り合いながら、教育・研究へ取り組んでいます。

スタッフ STAFF

教授

吉岡伸一
松浦治代

講師

金田由紀子
高間さとみ
仁科祐子
雑賀倫子

助教

徳嶋靖子

(三好雅之・特命助教)



DEPARTMENT

講座紹介

母性・小児家族看護学講座
講座代表 前田隆子

母性・小児家族看護学講座

母性・小児家族看護学講座は、母性家族看護学分野と小児家族看護学分野からなり、助産学コースも担当しています。

母性家族看護学分野では、女性の一生を性と生殖という視点から見つめ、現代社会におけるライフステージに応じた健康問題を講義し、必要な看護活動について学習します。例えば思春期の健康や性教育、妊娠・出産時の母親と新生児のケア、更年期以降の健康支援等があげられます。

また、小児家族看護学分野では、子どもの成長や発達及び家族を含めた環境を理解し、その知識を基盤として、小児特有の健康問題とその看護について学習します。例えば、慢性疾患に罹った子どものケアや発達障がいの子どもの療育に関することなどがあります。

助産コースは3年次に将来助産師として活躍することを希望者する学生の中から、学業成績、筆記試験、面接等によって10名程度の学生を選抜し、助産師国家試験の受験資格に必要な授業・演習・実習を行っています。

また、これら出産や育児は家族メンバーとのかかわりの中で行われるため、家族の機能や、家族成員の相互関係などの視点、すなわち家族看護についても学習できるようにしています。

講座での研究テーマとしては、妊娠・分娩・産褥期の女性の健康、若年女性の妊娠・分娩、性の問題、思春期の心と体に関する問題、更年期の健康問題、小児保健と生活習慣病予防、小児糖尿病と小児肥満症の治療、内分泌代謝学と小児の成長発達障がい、発達障がいの子どもと家族のケアに関することなどを行っています。

スタッフ STAFF

教授

前田隆子
花木啓一
鈴木康江

准教授

南前恵子

講師

池田智子

助教

遠藤有里
藤田小矢香

(川口奈緒美・県派遣職員)



DEPARTMENT

講座紹介

病態検査学講座
講座代表 北村幸郷

病態検査学講座

病態検査学講座は、学部教育においては、生化学(山田、下廣)、血液・免疫(飯島・中川)、微生物(鯉岡、中本)、生理機能学(廣岡、福田、佐藤)、病理(北村、松下)を中心とした講義、実習を受け持ち、主に臨床科目を中心とした教育、研究を担当しております。それぞれの専門領域における知識や技術のみならず、チーム医療のあり方や患者様との接し方も含めて指導し、卒業後、医療現場で戦力となる臨床検査技師を目指しています。

また、4年生では、実際の研究を学生が教員と一緒にを行う課題研究があり、各教員が学生を少人数で受け持ち、研究の意義や研究の方法論を指導しています。平成24年度は、前庭性頸筋電位の基礎的検討、気管支拡張剤吸入前後のCOPD患者における6分間歩行試験、単位時間歩数を導入した6分間歩行試験の検討、超音波エラストグラフィによる筋硬度評価、遺伝子多型を用いた個人識別、脂肪量の異なる食事負荷試験における血中可溶性LDL受容体の解析、著明な心肥大と大腸憩室炎がみられた一剖検例に関する研究成果などが発表されました。

大学院教育は博士前期課程(修士)と博士後期課程(博士)があり、各専門分野の特論、演習、特別研究を通して、より専門的な知識、技術のみでなく、自ら問題を解決する能力の育成を目指して研究を行っています。その成果は、学会および論文で積極的に発表を行っています。

研究面では、各教員が、生体肝移植、肝臓および皮膚の分子病理学、時間生物学、肝臓の生化学、凝固線溶異常症、神経疾患の電気生理、真菌の形態検査、遺伝子多型などに取り組んでいます。

大学院教育も含めて、研究能力、教育指導能力を併せ持った臨床検査技師の育成を目指して努力しております。

教授

廣岡保明
北村幸郷
鯉岡直人
山田貞子

准教授

福田千佐子
飯島憲司

講師

中本幸子

助教

中川真由美
松下倫子
下廣壽
佐藤研吾
石黒尚子(育児休業中)

スタッフ STAFF



EVENT&TEACHER

学年暦 & 学級教員

TOTTORI CAMPUS

鳥取キャンパス(1年次のみ)

事 項	月 日
学年開始(前期開始)	4月 1日(月)
春季休業日	4月 1日(月)～ 8日(月)
入学式・全学新生オリエンテーション	4月 5日(金)
各学部新生オリエンテーション	4月 8日(月)
前期授業開始	4月 9日(火)
月曜日の授業を振替実施	5月 7日(火)
鳥取大学記念日	6月 1日(土)
月曜日の授業を振替実施	6月 5日(水)
月曜日の授業を振替実施	7月 4日(木)
前期定期試験	7月29日(月)～ 8月 2日(金)
夏季休業日	8月 3日(土)～ 9月30日(月)
前期終了	9月30日(月)
後期開始	10月 1日(火)
後期授業開始	10月 1日(火)
月曜日の授業を振替実施	10月15日(火)
月曜日の授業を振替実施	11月 6日(水)
月曜日の授業を振替実施	12月 5日(木)
冬季休業日	12月21日(土)～ 1月 5日(日)
大学入試センター試験準備による休講	1月17日(金)
後期定期試験	2月 3日(月)～ 2月 7日(金)
卒業式	3月18日(火)
春季休業日	3月19日(水)～ 3月31日(月)
学年終了(後期終了)	3月31日(月)

YONAGO CAMPUS

米子キャンパス(2年次以上)

事 項	月 日
米子地区オリエンテーション	3月29日(金)
学年開始(前期開始)	4月 1日(月)
前期授業開始	4月 1日(月)
鳥取大学記念日	6月 1日(土)
前期授業及び試験終了	8月16日(金)
夏季休業日	8月17日(土)～ 9月30日(月)
前期終了	9月30日(月)
後期開始	10月 1日(火)
後期授業開始	10月 1日(火)
冬季休業日	12月28日(土)～ 1月 5日(日)
後期授業及び試験終了	2月24日(月)
卒業式	3月 7日(金)
春季休業日	3月 8日(土)～ 3月31日(月)
学年終了(後期終了)	3月31日(月)

平成25年度学級教員

専攻	入学年度	学年	教員氏名(所属講座)	
看護学	平成25年度	1年	深 田 美 香 教授(基礎看護学)	奥 田 玲 子 助教(基礎看護学)
	平成24年度	2年	松 浦 治 代 教授(地域・精神看護学)	仁 科 祐 子 講師(地域・精神看護学)
	平成23年度	3年	花 木 啓 一 教授(母性・小児家族看護学)	鈴 木 康 江 教授(母性・小児家族看護学)
	平成22年度	4年	片 岡 英 幸 教授(成人・老人看護学)	野 口 佳 美 助教(成人・老人看護学)

専攻	入学年度	学年	教員氏名(所属講座)	
検査技術科学	平成25年度	1年	網 崎 孝 志 教授(生体制御学)	藤 原 伸 一 講師(生体制御学)
	平成24年度	2年	鯉 岡 直 人 教授(病態検査学)	福 田 千 佐 子 准教授(病態検査学)
	平成23年度	3年	浦 上 克 哉 教授(生体制御学)	谷 口 美 也 子 助教(生体制御学)
	平成22年度	4年	山 田 貞 子 教授(病態検査学)	中 本 幸 子 講師(病態検査学)

※両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級委員として学生の指導・相談の任にあっている。

REPORT&LIST

後援会事業報告 & 後援会役員名簿

平成23年度鳥取大学医学部保健学科後援会事業報告

1 教育助成

入学関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 新入生合宿研修
(平成23年5月7日～8日)

大学説明会関連

- オープンキャンパス
(平成23年8月7日)

教育関連

- 新入生ふれあい朝食会
- 2年次学生と教員の懇談会
- 看護学専攻・
検査技術学専攻へ助成

2 国家試験対策

看護学専攻

- 看護師模擬試験
- 保健師模擬試験
- 助産師模擬試験

検査技術学専攻

- 臨床検査技師模擬試験

3 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

4 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交際

5 文化行事援助費

- 錦祭

6 後援会運営

- 保健学科広報誌「アレスコ」発行、後援会役員会

平成24年度鳥取大学医学部保健学科後援会役員名簿

役職名	氏名	役職指定
会長	安達 憲吾	—
副会長	廣田 裕	—
〃	市田 典浩	—
常任理事	大野原 徹	—
理事	小椋 克久	—
〃	松本 隆	—
〃	西村 祐二	—
〃	下原 勝利	—
〃	山口 秀美	—
〃	藤原 弘美	—

役職名	氏名	役職指定
監事	花田 武	—
〃	松重 嘉真	—
顧問	廣岡 保明	保健学科長
〃	花木 啓一	学生生活委員(看護)
〃	笠城 典子	学生生活委員(看護)
〃	山田 貞子	学生生活委員(検査)
〃	市川 修	学生生活委員(検査)
幹事	前田 佳哲	学務・研究課長
〃	井中 康夫	学務・研究課副課長
書記	伊東 輝治	教育企画係長

PLAN&EDITORIAL NOTE

後援会事業計画&編集後記

平成24年度鳥取大学医学部保健学科後援会事業計画

1 教育援助	入学関連	大学説明会関連	教育関連
	<ul style="list-style-type: none"> ● 入学式 ● 新入生オリエンテーション ● 新入生合宿研修 	<ul style="list-style-type: none"> ● オープンキャンパス 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新入生ふれあい朝食会 ● 2年次学生と教員の懇談会 ● 看護学専攻・検査技術学専攻へ助成
	2 国家試験対策	看護学専攻	検査技術学専攻
	<ul style="list-style-type: none"> ● 看護師模擬試験 ● 保健師模擬試験 ● 助産師模擬試験 	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床検査技師模擬試験 	
3 就職対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員による病院等の就職先への訪問 		4 医学部国際交流助成
			<ul style="list-style-type: none"> ● 国際交流協定校との交際
5 文化行事援助費	<ul style="list-style-type: none"> ● 錦祭 		6 後援会運営
			<ul style="list-style-type: none"> ● 保健学科広報誌「アレスコ」発行、後援会役員会

編集後記

鳥取大学医学部保健学科広報誌、アレスコ(ALESCO)第11号を発刊いたしました。

今回は、「写真で綴る新入生宿泊研修会」を始め、保健学科長からのご挨拶に続き、特集として今年度から始まりました、「あいさつ運動」「環境美化運動」についてもご紹介いたしました。また昨年度から掲載を始めた卒業生だよりは、今年度は検査技術科学専攻の卒業生にお願いいたしました。シリーズとなっております講座紹介は、地域・精神看護学講座、母性・小児家族看護学講座、病態検査学講座を掲載いたしました。ささやかではありますが、アレスコを通じて、保健学科の「成長・発展(アレスコ)」の姿とご子息の学生生活の一端を垣間見ながら感じ取っていただければ幸いです。

広報委員会委員長 南前 恵子

〔発行責任者〕鳥取大学医学部保健学科後援会
鳥取大学医学部保健学科広報委員会

〔発行所〕鳥取大学医学部保健学科
〒683-8503鳥取県米子市西町86番地

〔発行年月〕平成25年2月